

乃木坂スクール
「世界の実験・日本の挑戦」
第1回レポート

2017年4月13日
東京青山
牧田 洋行

希望を繋ぐ場所

長野先生の話の中で、印象に残った言葉がふたつあります。ひとつは、「多様な人を排除しない」という言葉。もうひとつは、「あらゆるひとが、なくてはならない人」という言葉です。

ここで少し私自身の話をさせていただきます。
私は重症の潰瘍性大腸炎で入院し、はじめは内科的な治療を受けていました。しかし、なかなか効果が無く、外科手術が必要な状態になり、大腸を全摘出する手術を受けました。そのため一時期、人工肛門での生活を経験し、その後、ストーマを閉鎖する手術を受けましたが、現在も術後の後遺症を抱えながら生活を送っています。

このように、普通から少し外れてしまったような部分を抱えている人間にとって、多様性を認めてもらえる、なくてはならない人だと言ってもらえる場所があるということが、その先の未来を生きていくための希望に繋がっていきます。
(私自身は、いまだにそうした場所を見つけられずにいるのですが・・・)

長野先生たちの取り組みは、その後の現実に対応していくための、受け皿を用意しているという意味においても、患者の立場から言えば、大変助かるものです。

こうした取り組みがこの世の中にあるということ、そして、こうした取り組みを紹介する場所に居合わせることができたということが、私自身の希望も繋いでくれた夜になりました。

ありがとうございました。